

【第6回アフリカ開発会議サイドイベント】

「Action on Nutrition: 食と栄養のアフリカ・イニシアチブ (IFNA) の発足」 —新イニシアチブによりアフリカにおける栄養改善を支援—

国際協力機構 (JICA) は、8月27日、ナイロビ市内の Sarova Panafric ホテルにて、第6回アフリカ開発会議サイドイベントとして「Action on Nutrition: 食と栄養のアフリカ・イニシアチブ (IFNA: Initiative for Food and Nutrition Security in Africa) の発足」を、NEPAD (New Partnership for Africa's Development) と共催で実施しました。

本イベントでは、共催者の NEPAD に加え、アフリカの12か国、FAO (食糧農業機関)、IFAD (国際農業開発基金)、WFP (世界食糧計画)、UNICEF (国連児童基金)、WHO (世界保健機関)、ゲイツ財団等から関係者の参加を得て、アフリカにおける食と栄養の問題解決に向けた新たなイニシアチブである IFNA の発足を宣言する IFNA 宣言が採択されました。

サブサハラ・アフリカでの栄養不足蔓延率は、各国の取り組みや開発援助機関の協力もあり、約33パーセント (1990~1992年) から約23パーセント (2014~2016年) まで減少しました。しかし、人口増加率が著しく高いことが影響して、同じ期間において、栄養不足人口は4,200万人増加し、最近 (2014~2016年) では約2億2千万人となっています。また、サブサハラ・アフリカの多くの国で、5歳未満の子どもの成長阻害 (慢性的な栄養不良の代表的な症状) の比率は約40パーセント、低体重児童の発生率も約21パーセントと高水準となっています。栄養摂取状態は、特に生後1,000日間の状態が生涯にわたって影響を及ぼすとされていることから、栄養改善は重要な課題として認識されています。2014年にはアフリカ連合により2025年までにアフリカの飢餓撲滅および栄養改善に取り組むとするマラボ宣言が採択されています。また、2015年に国連によって採択された SDGs (持続可能な開発目標) においても、2030年までの目標の一つとして、飢餓の撲滅と栄養不良解消が掲げられています。さらに、2016年から国連「栄養のための行動の10年」が始まっています。

このような背景の下、このたび JICA は IFNA を立ち上げました。この IFNA は、アフリカ各国と支援機関がより連携を深めることで、現場でのより具体的な取り組みを促進し、栄養改善に向けた目標の達成を支援しようとするものです。2025年までの10年間で、アフリカの約10カ国において、栄養改善戦略の策定や、既存の分野の垣根を越えた栄養改善実践活動の促進、これらの活動の普及などに取り組めます。

本イベントは二部構成で行われ、第一部での北岡 JICA 理事長及びマヤキ NEPAD 計画調整庁長官からの開会挨拶、ケニアのルト副大統領からの基調講演、榎本 JICA 上級審議役からの IFNA の概要説明に続き、「食と栄養の安全保障、相乗効果の創出」をテーマに、各国、各機関の代表者からスピーチがあり、それぞれの立場で IFNA の取り組みに協力していく意向が表明されました。また、日本・アフリカ連合友好議員連盟副会長の田中和徳衆議院議員からも、アフリカにおける栄養改善に取り組む IFNA を支援していくとのメッセージが表明されました。これらを受け、加藤 JICA 理事が IFNA の発足を宣言しました。

第二部では、「栄養問題への取組の促進」をテーマとして、栄養改善のための国際的枠組みである SUN (Scaling Up Nutrition) を始め、栄養改善に取り組む民間企業や NGO、青年海外協力隊など幅広い関係者から優良事例が発表されました。

JICA は今後、IFNA における具体的取り組みとして、NEPAD に IFNA 事務局を設置し、アフリカ各国での栄養改善事業を推進するほか、生活改善事業や学校給食、食育などの我が国の経験も活かしながら、農業、保健、教育等の分野で栄養改善活動を強化する技術協力やボランティア派遣などを実施していく予定です。

■本イベントの主な登壇者

第 1 部

- ・ウィリアム・ルト ケニア共和国副大統領
- ・イブラヒム・アサネ・マヤキ NEPAD 計画調整庁長官
- ・ジョゼ・グラジアーノ・ダ・シルバ FAO 事務局長
- ・オマル・アブディ UNICEF 事務局次長
- ・エリザベス・ラスムーソン WFP 事務局次長
- ・サナ・ジャッタ国際農業開発基金(IFAD)東・南アフリカ地域事務所長
- ・フランチェスコ・ブランカ WHO 栄養部長
- ・ショーン・ペーカー ビル&メリнда・ゲイツ財団栄養部長
- ・アブドゥレイエ・カ セネガル共和国栄養不良対策室長
- ・田中和徳衆議院議員（日本・アフリカ連合友好議員連盟副会長）
- ・北岡伸一 JICA 理事長
- ・加藤宏 JICA 理事
- ・榎本雅仁 JICA 上級審議役

第 2 部

<国際機関>

- ・フローレンス・ラズベン SUN 事務局長

- ・ ブジー・マジヤディクソン 国際熱帯農業研究所作物利用専門家
- ・ 村上秀徳 栄養改善事業推進プラットフォーム (一財) 食品産業センター理事長
- ・ カレン・フリーマン 米国国際開発庁 (USAID) ケニア及び東アフリカ事務所事業部長

<アフリカ各国>

- ・ ラベロ・パーリソン・アンビニンツ マダガスカル共和国 国家栄養局長
- ・ マリー・ムペレ ガーナ共和国 ジェンダー・人口・社会政策局次長

<日本企業>

- ・ 原文人 アライアンスフォーラム財団代表
- ・ 辻亮平 キッコーマン株式会社執行役員 商品開発本部長兼酒調味料開発部長

<民間企業と国際機関との連携>

- ・ 取出恭彦 味の素株式会社研究開発企画部専任部長 (途上国栄養改善)
- ・ マグラデレナ・オウス・モシ WFP ガーナ事務所次長

<市民社会、ボランティア>

- ・ 白須紀子 日本リザルツ代表
- ・ 荒殿美香 元青年海外協力隊員 (JKUAT 日清食品株)
- ・ メッテ・キノティ ヘレン・ケラー・インターナショナル副代表

司会：イサトー・ジャローNEPAD 栄養・パートナーシップ上級アドバイザー

